

第 14 回クラシックを楽しむ会

2014 年 9 月 21 日 (日) 18:30~21:30

歌劇「トスカ」(プッチーニ)

会場等：メトロポリタン歌劇場 1985 年 3 月

楽団等：メトロポリタン歌劇場管弦楽団、同合唱団

指揮：ジュゼッペ・シノーポリ

演出・舞台装置：フランコ・ゼフィレリ

衣装：ピーター・J.ホール

出演：ヒルデガルド・ベーレンス (トスカ)

プラシド・ドミンゴ (カヴァラドッシ)

コーネル・マックニール (スカルピア)

ジェイムズ・コートニー (アンジェロッティ)

イタロ・ターヨ (堂守)

アンソニー・ラチューラ (スポレッタ)

その他



ベーレンスと若きドミンゴ



メトロポリタン歌劇場

歌劇「トスカ」とは

ナポレオンが欧州を席卷していた頃のローマ。アリア「歌に生き、愛に生き」の女性歌手トスカと、アリア「星は光りぬ」の画家カヴァラドッシの悲運の恋を描く。

注目点

巨匠シノーポリが指揮し、二大スター歌手の若き日のプラシド・ドミンゴとベーレンスが共演。メトロポリタン生え抜きのコーネル・マックニールがスカルピア男爵役で舞台を圧巻し、往年の名歌手イタロ・ターヨが堂守役で存在感を示す。

ゼフィレリ演出の贅沢な舞台装置は大きな魅力で、特に大聖堂で壮大な「テ・デウム」が歌われる第一幕の幕切れの豪華さは目を見張る。

フランコ・ゼフィレリの演出について

現在 91 歳のゼフィレリはイタリア・フィレンツェ出身の名映画監督・脚本家・オペラ演出家、政治家。世界の主要歌劇場でヴェルディ、プッチーニの作品を多数演出。本公演のため歌劇「トスカ」の舞台となったローマの聖アンドレア教会、ファルネーゼ宮殿、サンタンジェロ城を実地に調査してメトロポリタンの豪華で見事な舞台装置を作り上げた。



ゼフィレリ 1989

第 15 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル：歌劇「ジャンニ・スキッキ」(プッチーニ) メトロポリタン歌劇場 2007

10 月 26 日(日)18 時開場、18 時 30 分上映開始

ジェームズ・レバイン指揮。有名なアリア「私のお父さん」をお楽しみください。

約 1 時間の鑑賞のあと、ワインで気ままにお喋りなどどうでしょうか。

11 月ロッシーニの歌劇「セヴィリアの理髪師」、12 月ヨハン・シュトラウスの喜歌劇「こうもり」を予定。

【時と場所】

1800年6月17-18日、ローマ。

【第1幕】聖アンドレア・デッラ・ヴァッレ教会、6月17日昼下がり

脱獄して聖アンドレア・デッラ・ヴァッレ教会に身を隠していた共和主義者アンジェロツティを画家カヴァラドッシがかくまう。教会に追ってきた警視総監スカルピアは歌姫トスカを見つけ、トスカを恋人カヴァラドッシの家に行くように仕向けて、手下に尾行させる。

王制側の軍がナポレオン軍を破ったという第一報（実は誤報）が入りスカルピアは喜ぶ。



聖アンドレア・デッラ・ヴァッレ教会。サン・ピエトロに次ぐ高いドーム

【第2幕】ファルネーゼ宮殿三階のスカルピア自室、6月17日夕刻

スカルピアはアンジェロツティの居場所を聞き出すためカヴァラドッシを拷問にかけますが口を割らない。トスカは恋人の拷問に耐えられずアンジェロツティの居場所を教える。

ナポレオン軍が王制側の軍に勝利したという正しい知らせが入り、喜ぶカヴァラドッシに怒ったスカルピアは死刑を宣告。

トスカはスカルピアに助命を嘆願し、スカルピアはトスカの体と引き換えに助けると約束。トスカは隙をみてスカルピアを刺し殺す。



ルネサンス期16世紀のファルネーゼ宮殿。現在はフランス大使館

【第3幕】サン・タンジェロ城の屋上、6月18日夜明け前

トスカはサン・タンジェロ城の牢屋に捕らわれているカヴァラドッシのもとに駆けつける。見せかけのはずの処刑が執行され、スカルピアとの約束が嘘だったこと気づく。スカルピア殺害を発見した兵士が追ってきて、トスカはスカルピアを呪いながら城壁から身を投げる。



ハドリアヌス帝が霊廟として建設したサンタンジェロ城。先端は天使像

【時代背景】

ナポレオンのアルプス越えとマレンゴの戦い

1800年5月、北イタリアをオーストリア軍から奪還するため、ナポレオンはフランス軍37,000を率いてモンブランの東15kmのグラン・サン・ベルナル峠を越え北イタリアへ進出。6月14日、フランス軍はジェノバの北40kmにあるマレンゴの戦いでオーストリア軍に勝利、オーストリアによる第二次対仏大同盟は崩壊する。激戦で戦況が錯綜、ローマに誤報が届いたのは3日後。



「アルプスを越えるナポレオン」と「マレンゴの戦い」

* 「セント・バーナード犬」は「グラン・サン・ベルナル峠」に、ナポレオンの愛馬「マレンゴ」と「鶏のマレンゴ風」はこの戦いに由来。

フランス革命に影響された共和派蜂起と王党派の巻き返し

フランス軍占領下のローマで1798年教皇領が倒されてローマ共和国が成立。ナポリも一時フランス軍に占領され1799年にナポリ革命発生。フランス軍撤退でイギリスのネルソン提督と同盟を結んだナポリ国王派が巻き返す。共和派を徹底的に弾圧して数千人を処刑。1799年9月ナポリ王国軍部隊がローマを占領しローマ共和国は終焉。ナポリ秘密警察が共和派残党を弾圧。1800年7月3日新教皇ピウス7世が教皇領復活。



戴冠式のピウス7世(右端)